

弥生時代の墓制ほせい (墓の移り変わり)

大野城市教育委員会



図1 弥生時代の墓地

弥生時代は、中国・朝鮮半島から稲作農耕をはじめとした多くのもの・思想が日本列島に伝えられ、支配者層の出現など身分の差が現われる社会でした。今回のテーマとした墓は、このような社会の様子をよく反映しています。大陸から埋葬の仕方、思想などが伝わったことにより、いろいろな墓が作られたのです。また身分差を反映して、死者への副葬品、墓の大きさなどの差が見られます。

図2は、木棺墓もくくわんぼです。地面に掘った穴の中に死者を納めた木棺を入れたもので、弥生時代初めから終わりまで作られました。墓穴の底には、棺の板を立てるための細い溝なかくぼが掘られています。市内では、中寺尾遺跡なかつてらのお・石勺遺跡こくじやく・森園遺跡もりぞのなどで見つかっています。



図2 木棺墓



図3 箱式石棺墓

図3は、森園遺跡で見つかった^{ほこ}箱式石棺墓^{しきせつがんぼ}です。地面に穴を掘り、平らな石を組んで壁と天井を作っています。弥生時代に朝鮮半島から伝わり、弥生時代初めと終りころ盛んに作られました。弥生時代終りころの墓には、鉄製品が副葬品として入ることがあります。

またこの墓は古墳時代初めころまで引き続き作られ、古墳の主体部（死者を納める施設）として採用されます。



図4 甕棺墓

図4は、甕棺墓^{かめかんぼ}です。弥生時代初めに朝鮮半島から導入された甕と、縄文時代からの伝統をもとに北部九州で独自に作り出された墓です。穴の底に甕棺を据えて死者を入れ、もう一つの甕棺で蓋をして密閉し、カプセル状にしたもので、弥生時代中ごろには、ほぼすべての墓が甕棺墓になるほど盛んに作られます。市内の中寺尾遺跡では、最も古いタイプの甕棺墓が発見されており、大変

注目されます。

「奴国の王墓」として有名な須玖岡本遺跡や吉野ヶ里遺跡墳丘墓などでは、鏡・武器形青銅器・ガラス勾玉など非常に多くの貴重な副葬品が入っており、墓が権力を象徴するものだというのをよく表わしています。

図5は、御陵遺跡から発見された石蓋土塚墓^{いしふたどこう}です。蓋のみに石を使った墓で、弥生時代の終りころに作られました。

まとめると、弥生時代初めころには木棺墓と石棺墓が、中ごろには甕棺墓が盛んに作られ、終りころには再び石棺墓が盛んに作られました。

また、弥生時代の墓は、身分差などの社会の様子や思想を生き生きと物語っているのです。



図5 石蓋土塚墓